

STAGE+を楽しむ(109)(HP 収載)
—ルドルフ・ゼルキン The Lost Tapes—

1. 始めに

前報(108)に引き続き、STAGE+のルドルフ・ゼルキンの The Lost Tapes の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ルドルフ・ゼルキンの The Lost Tapes の演奏を選びました。

ルドルフ・ゼルキン / The Lost Tapes

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第 21 番・第 23 番

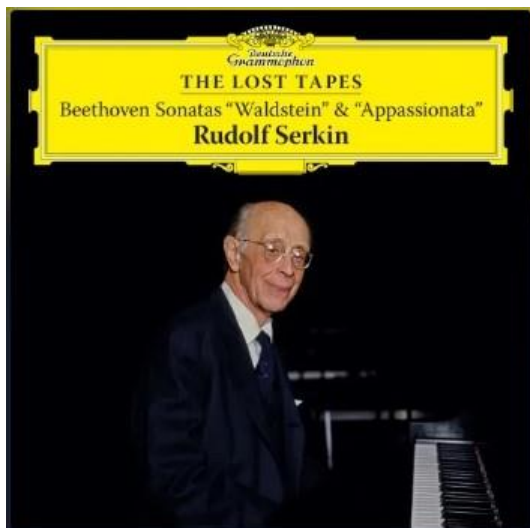
ルドルフ・ゼルキン (ピアノ、カデンツァ)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ 第 21 番 ハ長調 作品 53 《ワルトシュタイン》

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ 第 23 番 ヘ短調 作品 57 《熱情》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

The Lost Tapes の意味が分かりかねますが、未公開のものが見つかったということでしょうか。

The Lost Tapes というだけで、収録年代が不明ですが、音質は驚くほど新鮮です。ピアノ・ソナタ第 21 番《ワルトシュタイン》も、ピアノ・ソナタ第 23 番《熱情》もゼルキンのベートーヴェンの解釈は銜いもなくオーソドックスであり、ベートーヴェンのピアノ・ソナタの見本のような演奏です。激情の表現と美意識のバランスがとれており、そのことを表現できる技量もハイレベルに感じます。そういった表現力の様子が LAN アキュライザーと Crstal EpL などの効果で伝わってきます。

4. まとめ

LAN アキュライザーと Crstal EpL の効果により、ゼルキンのベートーヴェンのピアノ・ソナタの **The Lost Tapes** からのアルバムの音質は、最近の収録のように新鮮なものでした。

以上